

美術科 学習指導案

日時 平成 18 年 11 月 15 日 (水) 5 校時
学級 1 年 6 組 (男 18 名 女 17 名 計 35 名)
(授業場所 金工室)
授業者 千 田 香 理

1 単元名 絵画「スケッチの楽しみ」

2 単元について

(1) 教材観

スケッチは、学習指導要領において表現の基礎・基本として位置づけられている。一年生の始めに自己紹介をしてもらったところ、「絵を描くのは苦手です」と書いてきた生徒は多かった。しかし、がんばりたいと意欲を示してくれた生徒も多く、皆思ったように描きたい、上手になりたいという欲求を持っていることを強く感じた。よって、4・5 月当初に一度行ったスケッチの学習であるが、定期的に行う学習とともに、知識や技能の面で深めるためにもう一度行うこととした。

絵画表現は、個々の思いが描画として表現された最も基礎的なものとして、何よりもまず「見る」という行為から始まる。この原点である「見る」という行為の重要性と可能性を、スケッチの学習を通して生徒に気づかせたいと考えた。そして、自然界には人間の力では到底作り出すことのできない色や形が存在することを理解させ、意図的に自然との接点を設けて、じっくりと観察することから対象のもつ美しさやよさを感じ取らせたいと考えた。

(2) 生徒観

全体的に皆元気で明るく、お互いに協力ができる学級である。男女とも仲が良く、会話もあり、周りの友達の作品をお互いに評価し合うことができる。しかし、学習している教室は 4 人がけの机なので、時に会話がはずみ脱線することもあるので、リーダーを中心に注意し合いながら授業に取り組んでいる。美術への関心は、上手に描きたい、色を塗りたいという欲求はあるものの、完成までの過程で妥協してしまう生徒も多く、熱しやすく冷めやすい面も見られる。よって、作品へのアドバイスを繰り返し行い、一緒に行って手本を示してあげるなど、生徒の目線に立った指導を心がけている。

(3) 指導観

1 学年では総合的な学習の時間に「先人に学ぶ」というテーマのもと、「江刺りんごの歴史と将来」という講演会を行っている。この伝統ある江刺の特産物「りんご」を題材にスケッチの学習を進めれば、生徒も興味や関心をもって取り組むだろうと考えた。そして、スケッチや着彩を通して、自然や身近なもののよさや美しさを感じ取るということや、感じ取ったことを素直に表現する喜びを味わわせられるよう指導していきたい。

3 単元の指導目標及び評価計画

(1) 単元の指導目標

- 対象に関心をもち、観察や見ることを通して、よく見て描くことの大切さに気づくことができる。
【関心・意欲・態度】
- スケッチの知識や技術を深め、ものの形や色の特徴を捉えて表現することができる。
【創造的な技能】
- 自然や身近なもののよさや美しさ、不思議さなどを感じ取ることができる。
【鑑賞の技能】

(2) 指導計画と評価計画 9時間 本時7/9

時	指導内容	観点別評価規準			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	脳の働きを知る 逆さに描く	脳の役割の違いに興味や関心を持つことができる。 真剣に取り組むことができる。	表現の構想を練ることができる。	対象を見ながらスケッチすることができる。	対象を逆にして描いた作品との違いに気づくことができる。
1	形をとる練習	対象をよく見て描こうとしている。	ものの見方を深めることができる。	形を捉えて描くことができる。	対象の形の違いに気づくことができる。
2	様々な鉛筆のタッチによる描き方の練習と質感	様々な鉛筆のタッチの違いを覚えようとしている。	対象の質感をイメージすることができる。	様々な鉛筆のタッチを使い分けて描くことができる。	鉛筆のタッチによる、対象のイメージの違いに気づくことができる。
1	りんごを描く	対象を見て描こうとしている。	ものの見方や感じ方を深めることができる。	自分なりの方法でスケッチすることができる。	個々の作品のよさや美しさに気づくことができる。
1	水彩練習 りんごの着彩 「下塗り」	対象を見て、彩色しようとしている。	彩色された対象をイメージすることができる。	対象の色の特徴を捉えて、彩色することができる。	対象の色の特徴を捉えることができる。
本	りんごの着彩 「立体感の表現」	対象を見て、彩色しようとしている。	立体感を出すための彩色を考慮することができる。	彩色で立体感を表現することができる。	色で立体感を感じ取ることができる。
2	りんごの着彩 「完成」 好きな題材で絵手紙を描く	対象を深く見詰め、自分らしい絵手紙の表現の仕方を創意工夫しようとしている。	バランスよく、全体の画面構成をすることができる。	対象から感じとったことを、自分なりに表現することができる。	個々の作品のよさや美しさに気づくことができる。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

りんごの立体感を色で表現することができる【創造的な技能】

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具 体 の 評 価 規 準		C 努力を要する生徒への支援	評価場面 (方法)
		A 十分満足できる	B 概ね満足できる		
関心・意欲・態度	対象を見て、彩色しようとしている。	対象をより深く見て彩色し、よさや美しさを感じ取ろうとしている。	対象を見て、彩色しようとしている。	対象を見る視点を確認して示してみせる。	着彩(観察)
発想や構想の能力	立体感を出すための彩色を考慮することができる。	彩色された対象をイメージできるとともに、深く考えることができる。	彩色を考慮することができる。	鉛筆でスケッチした時の学習内容を想起させる。	発表 (学習プリント、発言)
創造的な技能	彩色で立体感を表現することができる。	立体感を、丁寧にしっかりと表現することができる。	立体感を表現することができる。	対象をよく見て、色の違いや明暗などを確認させる。	着彩(観察、学習プリント)
鑑賞の能力	個々の作品のよさや美しさを感じ取ることができる。	個々の作品のよさや美しさを学び、作品に生かそうとすることができる。	個々の作品のよさや美しさを感じとることができる。	鑑賞の視点を示してみせる。	発表、自己評価 (発言、自己評価内容)

(3) 研究内容との関わり

ア 本時の基礎・基本

- ・対象をしっかりと見て、立体感を彩色で表現することができる。

イ 定着を図る指導の工夫

- ・学習課題を確認・理解するために、一斉に音読する。
- ・授業の最初と最後に転写法を行って、学習内容の想起を図る。

ウ 動機付けの工夫

- ・地域の素材を用いた学習内容を工夫する【興味・関心】
- ・分かりやすい学習を導く紙板書や学習プリントを工夫する【有能感】
- ・できる喜びや生徒相互の励ましのための学び合いの場を設定する【有能感】

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手立て 指導の留意点 支援	評価の視点 具体的評価規準 (評価方法)	研究内容との 関わり(重点)
導入 5分	1 前時までの復習	前時の復習を質問応答形式で確認する 紙板書を使って、想起を図る。 学習課題を一斉に音読する 紙板書を使って、学習課題の確認を図る。		転写法 音読 動機付けの工夫 【興味関心】 【有能感】
	2 本時の課題の確認 課題を音読する			
学習課題 着彩でりんごの立体感を表現してみよう				
展開 35分	3 立体感を表現するためにはどのように彩色したら良いか考えてみる。	鉛筆で描いた時の学習内容を、紙板書を用いて想起させる。 鉛筆でスケッチした時の学習内容を想起させる。	【発想や構想の能力】 A 彩色された対象をイメージできるとともに、深く考えることができる。 B 彩色を考えることができる。 (学習プリント、発言)	動機付けの工夫 【有能感】
	4 立体感の表現 ・形に沿ったタッチ ・陰の部分に色を重ねる(色の濃淡で表す) (・色の対比で表す) (・影をつける) など	絵の具の色、筆を指定して皆同じように行う。 間違ったやり方を、紙板書を用いて説明する。 対象をよく見て、色の違いや明暗などを確認させる。	【関心・意欲・態度】 A 対象をより深く見て彩色し、よさや美しさを感じ取るようとしている。 B 対象を見て、彩色しようとしている。 (着彩)	
	5 周りの作品を鑑賞する	個々の生徒の作品から良い点などを感じとらせる。 鑑賞の視点を示してみせる。	【創造的な技能】 A 立体感を、丁寧にしっかりと表現することができる。 B 立体感を表現することができる。 (観察、学習プリント) 【鑑賞の能力】 A 個々の作品のよさや美しさを学び、作品に生かそうとすることができる。 B 個々の作品のよさや美しさを感じとることができる。 (発言、自己評価内容)	
終結 10分	6 自己評価表の記入、発表 7 次時の授業の確認	自己評価表に授業で学んだことを書く 周りの意見を聞き、自分の作品作りに生かすように指導をする。		転写法